



命を守るために



～自分の命は自分で守る～



安全に楽しく遊ぶために

早いもので、来週で前期が終了します。暑い夏がようやく終わり、過ごしやすい季節を迎えました。風邪気味の子が少し増えていますが、子ども達は落ち着いて学校生活を送っています。

秋を迎えるにあたって、以下の点を全校で子どもたちに学級指導しました。放課後の時間も安全に過ごせるよう、ご家庭でもご確認をお願いします。

1. 帰宅時刻（**10月**から**午後4時**）を守る。
2. 外出するときは、必ず家族に「だれと」「どこに」行って、「いつ帰るか」を知らせる。（家族がいない場合はメモを残す）
3. 親が出かけていない時など、保護者が不在の場合、その家で遊ばない。
4. 子ども達だけで、スーパー、商店、コンビニなどには、用事がない時には行かない。
5. **校区外には、絶対に行かない。（自転車での行き来×・お店への出入り×）**
6. 道路で遊ばない。（×ボードや**自転車の乗り方**）
7. 子ども同士で金銭のやりとりをしない。（**おごる・おごられる**）
8. 「ゲーム（通信型も含む）」や「スマホ」は、時間やルールを決めて使う。（家庭のルールは絶対に必要です！）
9. **持ち帰ったタブレットを学習以外に使わない。（友達とのやりとり×）**

※スマホや、スイッチなどのオンラインゲームでは、**勝手に動画をあげない**

「他人にみられてこまる書きこみはしない」などルールやマナーが必要です。ス

マホ・インターネットは、保護者が把握できる状況・責任のもとで使用させていただきます。

◇ネットトラブル未然防止に関する資料を掲載します。家庭でもお子さんと、ルールの確認をお願いいたします。

◇校区外のお店への出入り（イエローグローブ・マックスバリュ・100均）について、学校での指導場面が増えていきます。自転車を含め、行動範囲は、校区内のみです。ご家庭でも、改めてご確認ください。





つたえるかって、なんだろう？ ～ネットでのやりとりを考える～

➤ こんなとき、あなたならどうする？

SNSで友だちが誤った情報を投稿していました。
あなたはコメント欄に何か書いて友だちに伝えますか？
それとも何も言わないでおきますか？

例1 「それ、まちがってるよ」

例2 「ちょっと気になったんだけど、これって本当？」



同じことを伝えようとしても、つかう言葉によって相手の受け取り方は大きく変わります。
もし、自分が例1や例2のような言葉を言われたらどんな気持ちになるか、想像してみましょう。

➤ 伝えるときに大切な3つのポイント

インターネットの中では文字だけで気持ちを伝えなくてはいけないときがあります。
あなたが思っていることを正しく伝えるために、3つのポイントに気を付けてみてください。

① 言葉の選び方

相手にちゃんと伝わる言葉か、きつい言い方になっていないかを投稿する前に
見直してみましょう。

例えば「それ、まちがってるよ」は「〇〇という考え方もあるよ」と
言い換えることもできます。

② 相手の立場に立つこと

相手に言葉を伝える前に言葉を受け取る相手の気持ちを想像してみましょう。
また、自分が言われたらどう感じるかを考えてみるのも効果的です。

③ 伝える目的を考える

何を伝えようとしているのかをよく考えてから伝えましょう。
よりよくするための言葉が責める言葉になってしまいませんか？

インターネットでも現実でも、言葉は人と人をつなぐ大切な手段です。
何をどう伝えるかで、相手を励ますこともできれば、傷つけてしまうこともあります。
だからこそ、自分の言葉に責任をもって大切に使いましょう。